

この*ちから
CLOSE UP



荒尾高校ラグビー部監督

徳井 清明 さん

昨年12月、荒尾高校ラグビー部が、第90回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場した。

荒尾高校ラグビー部を5度の全国大会出場に導いた立役者の一人、監督の徳井清明さん。現在「2030あらゆる明優都戦略事業」教育秀都プロジェクト事業の一環である「タグラグビー教室」に、ラグビー部員らとともに携わっている。

「ラグビーは助け合いのスポーツ。また、同時に頭脳プレーも必要。自分のわがままなプレーは通用しません。し

とくい きよあき ●1967年生まれ、玉名市天水町在住。平成8年に荒尾高校へ赴任、今年で15年目。平成9年からラグビー部監督に就任し、荒尾高校ラグビー部の教え子はおよそ200人にのぼる。

かし、気持ちを表現し、仲間とつながり、分かりあえるスポーツです」と徳井さんはラグビーの魅力を語る。
仲間たちと心を通わせるスポーツだからこそ、荒尾の地にラグビーを根付かせ、ラグビーを荒尾のまちづくりを活かしたい。そんな思いで現在、性別に関わらず参加しやすい「タグラグビー」の教室に携わっている。
徳井さんの指導のもとで小学生にタグラグビーを教えるのは、ラグビー部の高校生。彼らは自ら、子どもたちへの教え方を考えて実行している。子ど

も一人ひとりの名前を呼び、良いプレイをほめ、してはいけないことを諭す。その姿は、参加する小学生のよきお兄さん。そして徳井さんが言う「次回も参加したい」と思える教室づくりのために、高校生も成長し続ける。それが荒尾高校の強さの理由の一つだ。
「教えるという事は難しい。教えるためには、ラグビーの本質を知っておかなくてはいけない」

本質を知れば、行動に表れる。荒高ラグビー部の行動指針は、オール熊本(国体選抜強化選手)の行動指針に採用されているという。試合だけではなく、日頃の行動から律する力を学び、育んでいく。それが荒高ラグビー部の文化だ。

「生徒たちはがんばっている。だから、荒尾高校をラグビー日本一にします」

徳井さんは明るい表情で、確かな目標をきっぱりと口にした。

12月22日、平井小学校3年生にタグラグビーの授業を行った徳井さん。ここではタグラグビーのルールやプレイ、試合前後の並び方とともに、終わった後に相手と握手を交わし、健闘をたたえる「ノーサイド」の精神も伝えた。ラグビーを一人でも多くの子どもたちが好きになってくれたら——徳井さんの目が細くなる。

「楽しかった！」平井っ子たちは笑顔を向けた。「先生も楽しかった！」と同じく笑顔で答えた徳井さん。その表情には、時代を担う荒尾の子どもたちへの、深い愛情が満ちていた。

- 1_12月18日(日)のタグラグビー教室。高校生も驚くスピードでゲームを楽しむ子どもたち。
- 2_12月22日(水)、平井小学校3年生の授業。初めてでも楽しくプレーし、笑顔がはじけた。
- 3_荒尾高校ラグビー部の皆さん。これからも強くなっていく彼らから、ますます目が離せない。



1



2



3